

- 問1 九州北部の福岡県付近で発見された弥生土器に象徴される時代には、大陸から青銅器の技術が伝わりました。この青銅器の一つである「銅鐸」は、日本において主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。(2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 豊作などを祈るための、祭りの道具
  2. 脱穀を行う際に使用する、千歯こきなどの農具
  3. 大陸との交易において支払いに使われた、和同開珎などの貨幣
  4. 武士が戦場で敵を攻撃するために使用した、実戦用の武器
- 問2 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものととして、最も適切なものはどれか。(2026年 北海道公立入試 類似)
1. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。
  2. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。
  3. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。
  4. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。
- 問3 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために造られた「高床倉庫」について、床を高く設計した主な目的として最も適切な説明を選びなさい。(2021年 岡山公立入試 類似)
1. 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。
  2. 敵からの攻撃をいち早く発見するために、建物全体を物見櫓（ものみやぐら）として活用するため。
  3. 夏の暑さをしのぐために、地面に深い穴を掘って室内の温度を一定に保つため。
  4. 洪水による浸水を防ぐために、海岸沿いの低湿地に集落の全ての建物を配置する必要があったため。
- 問4 縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。(2016年 鳥取公立入試 類似)
1. 弥生土器
  2. 須恵器
  3. 土師器
  4. 黒色土器
- 問5 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。(2020年 沖縄公立入試 類似)
1. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた
  2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた
  3. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた
  4. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた
- 問6 歴史上の生産活動の発展において、農具の素材が変化することは大きな意味を持ちます。鉄製の刃先を用いた農具への変化について説明したものととして、正しい記述を選んでください。(2016年 富山県公立入試 類似)
1. 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した
  2. 鉄は加工が困難であったため、刃先も含めてすべて石で代用する手法が普及した
  3. 鉄製の農具は重すぎて実用的ではなかったため、主に祭祀用の道具として使われた
  4. 鉄の刃先が導入された後も、土を耕す作業には一貫して木製のみの道具が使われ続けた
- 問7 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。(2025年 長野公立入試 類似)
1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡
  2. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印
  3. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀
  4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符
- 問8 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。(2024年 沖縄公立入試 類似)
1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
  2. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。
  3. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
  4. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。
- 問9 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。
  2. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
  3. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。
  4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地で大規模な古墳が作られた。
- 問10 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。(2024年 宮崎公立入試 類似)
1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。
  2. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。
  3. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。
  4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めようになった。
- 問11 弥生時代の人々が、収穫した米を保存する建物の床を地面から高く設計した理由として、当時の工夫を説明したものととして最も適切なものはどれですか。(2018年 山形県公立入試 類似)
1. 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため
  2. 床下を家畜の飼育スペースとして利用し、限られた土地を有効に活用するため
  3. 洪水が発生した際に建物全体が水に浮くようにし、米が濡れるのを防ぐため
  4. 敵に米を奪われないよう、床下に深い穴を掘って隠し場所を作るため
- 問12 日本の弥生時代中期には、現在の千葉県茂原市に位置する宮ノ台遺跡から出土した「宮ノ台式土器」に代表されるような地域独自の文化が見られました。この日本の弥生時代中期と同じ頃、地中海周辺を中心とする世界ではどのような歴史的な動きがありましたか。(2023年 千葉県公立入試 類似)
1. ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。
  2. エジプトで巨大なピラミッドが建設され、王の強大な権力が示されていた。
  3. 中国で殷（商）が成立し、祭祀に用いるための精巧な青銅器が作られていた。
  4. メソポタミアでハンムラビ王が法典を整え、周辺地域を統一した。
- 問13 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といえますか。(2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 環濠集落
  2. 高地性集落
  3. 竪穴住居
  4. 高床倉庫

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 豊作などを祈るための、祭りの道具	弥生時代に大陸から伝わった青銅器は、銅とスズの合金で作られていました。当初は武器としての形を持っていましたが、日本では次第に大型化・薄型化し、実際に使う武器としてではなく、集落の豊作や繁栄を祈るための祭りや儀式の道具（祭祀具）として発展しました。銅鐸は特に近畿地方を中心に多く発見されています。
問2	答え 2 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問3	答え 1 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。	稲作が本格化した弥生時代には、収穫物を長期間保存する技術が不可欠となりました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気による稲の腐敗を防ぎ、さらに柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫が施されていました。
問4	答え 1 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問5	答え 1 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問6	答え 1 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した	古代の農具の改良に関する資料などでは、木製農具の先端部分を鉄で補強する記述が見られます。鉄は木材よりも硬く鋭いため、これを刃先として利用することで土地を効率よく耕し、生産性を高めることができました。こうした技術の進歩が、のちの国力の増大や社会構造の変化を支える基盤となりました。
問7	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授けられました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問8	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問9	答え 1 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生まれました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問10	答え 1 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島の情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問11	答え 1 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害虫が侵入するのを防ぐため	収穫した米は湿気に弱く、カビが生えやすいため、床を高くして風通しを確保する工夫がなされました。また、柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けるなど、食料を害獣から守るための構造的な特徴を持っています。
問12	答え 1 ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。	弥生時代中期の日本は、紀元前後を中心とした時期にあたります。この時代、地中海世界では都市国家から発展したローマが周辺諸国を征服し、広大な領土を持つローマ帝国として全盛期を迎えようとしていました。一方で、選択肢にあるエジプトのピラミッド建設や殷の青銅器文化、ハンムラビ王による統一などは、いずれも日本の弥生時代よりさらに数千年から千年以上前の出来事です。
問13	答え 1 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。